

もみ殻灰で樹脂材

エルアンドアールが製品化 環境配慮、高耐燃性を実現

【南大阪】エルアンドアール（大阪府和泉市、大迫勝徳社長、0725・40・3705）は、西宮合成（大阪府城東区）と連携して、もみ殻灰を50%以上混合したプラスチック材料を開発した。高い耐燃性を実現しており、建材分野での商品開発を予定。現在、産業廃棄物として処理されているもみ殻灰を減量していることから、環境配慮商品としてもPRしていく考えだ。今後は抗菌性などのテストを行い、更にも商品化へ着手する。

開発にあたっては、エルアンドアールが開発統

括し、西宮合成が原材料

調達や試作で協力した。

プラスチック材料には用

途に応じてもみ殻灰を50

%から80%まで含有させ

ることに成功しており、

異形押し出し成形や射出

成形による建材部品の商

品化を予定する。

商品化後は両社の販路

を使って売り出す考え

だ。エルアンドアールの

大迫社長は、「3年後に

自社の売り上げが現在の

4億円から倍増するよう

にしたい」と意気込む。

原料のもみ殻灰は国内調

達のほか、火力発電でも

み殻を燃焼させているタ

イなどからも調達する方

針。エルアンドアールはシ

ステムキッチンなど住宅

設備向けに、プラスチック

ク部品、金属部品の2次

円。

加工を手がける。08年7

月期の売上高は約4億